WASON
HQ
1164
J94

女學雜誌

第二百六十一號
明治二十四年四月十八日發兌

明治女學校新倫理問題
禁酒諸雜誌の評
演說記　ウイラード
日本の基督教
新小說　愛山生
花園女史を訪ふ
海外新刊女學書類の評

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 261. APRIL, 18TH. 1891.

EDITORIAL :—Christianity in Japan (Religion, an Education).

MISCELLANEOUS:—Answers to the question "Can bad Means be justified when it is used to save a person's life?"; Count Tolstoi; Good Conversation; Dr. Verbeck in the Imperial University; Women plus Time (Miss Frances Willard).

NOVEL :—Courtship of "Miles Stanjishs."

SCIENCE :—Natural and Artificial lights; light and Heat.

CRITICAL NOTES :—Periodicals on Temperance; Latest Western Thoughts on Women question.

HOUSEHOLD :—Hints about bringing up of Children.

SEED THOUGHT :—Lambling in Spring.

CHILDREN'S COLUMN :—New Lulubies.

HUMOUROUS :—The Fortuneteller.

第二百六十一號目次

社說 雜錄 小說 理學 批評 寄書 文學 家政 隨感 兒籃 笑草 時事 問答 女報 通信 週報 物價

日本の基督教(宗教と教育)
人を敎はんとて、權謀を用ゐ欺きを爲すの善惡(倫理問答)○トルスイ伯を訪ふの記(下)(雲峯子)○談話の巧拙(上)(天知子)○歡唔の一席(渚雲子)○近三年間に於る米國婦人の進歩(ウイラード)
マイルス、スタンヂッシュの戀(愛山生)
自然光と人爲光○光と熱の關係(吉田伸子)
福岡縣水害史○かな習字帖○禁酒上の雜誌○海外新刊女學○一婦人の書簡○シスター、フヒロメム
花園女史に謝す(吉田駿逸)
和歌數首
育兒上の所感五則(山下石翁)
春の野邊ありき(もみぢ)
新作兒もりうた
うらなひ(ふみ子)
内閣のもめ、政治家の騷ぎ○小新聞の繪畫○流行殖民○海外渡航の婦女○東京醫會と廢娼論○婦人官吏○女スタンレー○米洲女子國會○其決議○米洲女權擴張會

廣告

私立 明治女學校 新入生徒募集

定期試驗終れるに付新入生を募る。普通科は五年卒業にて小學尋常科卒業と同資格の人を迎ふ。英學專修科は、毎日二時間の授業にて高等の英學を敎ゆ、自由に何れの組にも出席するを得。其他、國文、書學、皆な專修科あり。職業科は、縫箔、裁縫、速記、繪畫の四科現に授業中にて倘ほ新入を許す。主計科は半年卒業にて、夏休后に第二期生を募る。倘ほ細則を望む人は、郵便切手二錢封入御申込あれ。

●英學專修科畧表

一年生
ユニオン第一、第二、第三讀本譯讀(一週七時)
讀方、書取、作文各一時間(外國婦人)

二年生
ユニオン第三、第四讀本譯讀(一週七時)
讀方、書取、作文各一時間(外國婦人)

三年生
第五讀本、文典、ラセラス等譯讀(一週六時)
英講、書取、作文、讀方一時間(外國婦人)

四年生
イルビング文集、修辭學、ゴールドスミス小說譯讀一週六時
英講、作文、讀方、合四時間(外國婦人)

五年生
シエクスピア戯曲。ミルトン失樂園。ユゴ、悲史。エリヲット、ロモラ。撰詩。批評。作文。修辭學等
(右十時間、大抵外國婦人)。

●漢學專修科畧表

一の組 王陽明文粹。莊子。詩經。唐詩選。
二の組 古文眞寶。日本人詩集。
三の組 外史 政記。

東京下六番町六番地
明治女學校

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第二百六十一號　明治二十四年四月十八日發兌

社説

日本の基督教（上）

一　宗教と教育

教授ドラムモンド氏、六日、教場にて理學を講じ、一日、會堂にて聖經を講ず、一身學教の二つを双べ説いて、左右調和せざるもの丶正中に立てり。久しうして、双方の過不足自づからに分れ、二者の矛盾する所ろ明らかに知れ渡りぬ。此に於てか、遂に名高き二法一元論の著あり、靈界にも亦た物理法則の行はる丶ことを容易すく辨ずるを得たり。爾來渙然たる解釋一新し、宗教家の説法生面を開くに至り、聽者に明晰なる瞭解を得せしめたる効、尠なしとせず。

夫れ、基督の教は天下の大道なり、古今に於て其用を二つにせず、内外に施こして其理を異にすることある可らず、惟ふに之を用ひて宜しきを得ざるの所ろあらざる也。然るに多年教育に從事するものにして、今の宣教師諸君が平常言ふ所ろを聞かば、間ま多少の遺憾なきこと能はず、私かに語りて、われ教育者は如此き論法を用ひて基督教を傳ふること能はず、と言ふ折もあるべし。

蓋し、宗教は一の教育なり。抑も何をか教育と云ふ。人に眞理を教えて之を導びくの謂なるか、果して然らば、宗教も亦た人に眞理を教ゆることを旨とす。或は、人の性を開發し、其本然を伸暢するの謂なるか、果して然らば、宗教も亦た人の稟性中、最とも高尚なる本質を開發することを要とす。斯の如くんば、宗教と教育と遂に違ふ所ろあるを見ず。其稍や相異なる所ろのものは、宗教は專ぱら、永遠、幽高、の事を主旨とし、所謂る教育の如く、卑近實際の道に念を掛くること多からざるにあるのみ。左れど、教育も亦た必らずしも卑近實際の事のみを旨とするにあらず、否な、人を完全の理想に到達せしめんことを第一の希望とすと云はゞ、教育の尤とも高く希望する所ろの事は、即はち遂に宗教の事にあらずや。宗教と教育と到底大差なきことを識る。

世上の万事信を以て立つ。理化の學、只管ら實驗を以て要とするに似て、其とは信を其の基礎となす、信あらずんば、理化

學の玄理は遂に虚無に歸せんとす。然りと雖ども、宗教の事たる、取分け信を專要とし、之を求むると他に比類なきが程なれば、信は則はち唯だ宗教にのみあると思ふものなきにあらず。此を以て、宗教は路に據らず、序でを蹈まず、卒然歸依熱信して、直ちに其堂に到ると得べきものとし、目して彼の日に一字を知り月に一理を覺り年に一科を卒るの教育とは相違する太甚し、と考ふるものあり。是れ分量の相違を見て種類の相違と心得るの誤認なり。

吾人惟へらく、世俗所謂る教育とは、家國政法に關はるの人事を教ゆるに止まり、其以上に及ぶと稀れなり、宗教は即はち更に數段歩の先に進み、眞理に對し、正善に對し、潔美に對し、靈界に對し、無限に對し、上帝に對するの人事を教ゆ、素より世俗凡稱する所ろの教育とは異なり。故に此意義に隨つて之を言わば、教育と宗教とは純然、別異のものなり。然れども、吾人が謂ふ所ろの教育とは、完全高大の教育を指ざす、完全高大の教育とは即はち無論宗教の事を含蓄する也、人最高の處ろに觸れずして何如ぞ最高の人物とならんや、人を最とも高く開發せんとするの教育は、既に言ふ所ろの宗教なるのみ、宗教とは一の教育なり。

吾人久しく此見を懷き、尋常世の基督教を説く所ろの人の論理に甘服せざる、蓋し一日に非ず。淺見短識の徒、豈に專門門内の人に企及すと云はん。たゞ、身教育家を以て任とするものは、教育上普通明白の定理に適はざるの説法を聽て、容易すく之を領認すると能はざるを憾みとする耳。

二　開發主義

注入主義開發主義の論爭既に定まりてより此の方、教育上誰か注入方の愚を再演するものあらん。

基督の吾等に教ゆるや、先づ吾等に罪を悔ひよと云ふ。罪を悔ひ心潔よくして則はち神を見る、心清くして初めて神を見るとを得べしと云ふ。既に神を見て其聖なるとを崇め彌よ之を尊とみて之に連なると、葡萄の枝其幹に於けるが如くなるべしと云ふ。既に天父に合して洪大無邊遠永無窮の地に逍遙遊し、いよ〳〵永生を樂しみて有限の苦樂損益を忘却す、此に至りて脱然死すべき世を出でゝ、死せざるの天に屬すと云ふ。而して如此き進路に進み、弱性を鼓して敢て道に登るの勇あるを得るは、偉人物基督を見るを以て初まり、之に親しむを以熱し、之に從を以て長ずとは云。大躰の楷段斯の如くにし

て、歩々進み向ふものにあらぬはなし。

ポウロ云く、我は後なるものを棄てゝ前なるものを望み進むと。信徒一生の行爲は、道に進み徳を立つるの大事業にあらぬはなし。夫れ既に進むと云ふ、進むものは進歩の路に據らずんばある可らず。進歩の路は即はち開發の順序にして、粗より精に入り、弱より强に入り、軟より硬に入るものとす。未だ初めより直ちに精强硬なるものはあらず。

左れば、基督の門に入るものは、先づ罪を悔ひ、神を認ため、基督を師とすることを要す。以上三ッの事ほゞ備はらば既に足れり、夫より以上の事は則はち以后漸次に學び達すべきのものとす。但し、此の三ッの事と云へども、初は只だ極めて粗なるものに過ぎず、經練篤行にして而して后ち漸やく其の精なるものに化するを至當とす、かくして多年を經、則はち徳强く信硬きものに漸進し來る。

然るに、初來一定の信仰箇條なるものを製造し、惣ての信徒たらんとするものに向つて、樣々の信仰を注文す。云く、罪は、アダム、エバの元罪より來ることを信ぜよ、神には斯々の稟性あることを信ぜよ、人の靈魂は斯の如く其未來は如此しと云ふ事を信ぜよ、基督は即はち神の唯一人子なることを信ぜよ、汝が罪は之によりて償はれ、汝は今ま現に之にて償はれ、既に救はれたりと信ぜよと。凡そ如此き信仰箇條を同時同期に悉とく信執せしめんとす、思ふに至難の事とす、蓋し到底出來がたきの事とす。

故に信ずるものは信ずるにあらず、之を學びたるのみ。其學べりとは、意至り想達して適感之を信ずるに足るほどの開發を爲したるにあらず。只だ之を暗誦したるに過ぎず。其の教へらるゝや注入的なり。

左れば、多くの信徒は、教會に入る時、信仰箇條の素讀を爲し、之を暗誦し、其后多年の經練中、たとへば牛が一旦丸呑にしたるものを少しづゝ吐出して再嚼することの如く、僅々少々自己の齒にて嚙み分け、自己の胃腑にて消化し、而して后ち、初めて其自己のものとなす。

人を見ること極めて難し、何人か能く百日親交の友の品性を正しく評價することを得ん、況んや基督の人物を評するに於てをや。然るに卒然之に迫りて、神子たることを信ぜしめんとす、安んぞ得ん。凡そ如此き聖絶至高の觀念に達するは、入教以后多年の日月を經ることを要す、初めは只だ其偉人物たることを

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

崇拜するに止まるのみ。人容易く其神性を認ためたりと云ふ、然も數年の后ち、顧みて當初の觀念を想起せよ、蓋し小聖人に對すると同格の崇拜を爲せしに過ぎざりしとを認知せずんばあらず。ヨハチ云く、我儕其榮を見るにと。此の謹粛の辭ばを發するに至るだに尙ほ數年を要す。（本誌第二百卅三號基督論を參看せよ）

宗敎の學校にも亦た分級なかる可らず、宗敎の敎育にも亦た順序なかる可らず、須らく開發的なるべし、注入的の愚を再演する勿れ。先づ苗出で、穗を抽き、而して后ち實る。童子の時は、語る所ろ童子の如く悟る所ろ童子の如く慮る所ろ童子の如し、成人て童子の事を棄つ、初めは先づ粥を食べざる可らず、而して后ち硬き飯を食すべし。

三　樂學、苦學

學ぶとは本然の需要なり、智るとは天性の喜こびなり、學んで苦しきは、適せざるの學なり、相當自然の學問は、人に快味を與へて樂しきと言はん方なし。

此を以て、學生の怠るは、學生の罪にあらずして、敎ゆる人の罪なり。もし、相應はしきほどの學科を、分に應ずるほどに授くるときは、學ぶものは呑むが如くに之を貪ぼり學び、未だ嘗て厭ふとある可らず。此の故に、開發的の敎師は常に學生を喜ばせ、注入的の敎師は常に之を苦しましむ。

宗敎の說は、人の本性必需の欠點に應ず、何ものか之を聽くとを樂しまざるべき、聽て何人か之に長ずるとを樂しまざるべき。而して、聽くもの丶必らずしも喜こばず、學ぶもの丶敢て樂しみ修めざるは、特り信徒受敎者の罪のみにあらず、之を敎ゆる人の其道を得ざるに因る。

四　自己

「自己」を認識せしむるは敎育の初め也、之を確認せしむるは敎育の極旨なり。所云る大先生は、學ぶものをして、自己を重んぜしめ、自己の力を以て自勉自修するの念あらしむ。堯舜の代、民謠ふて曰く、皇何くにかあると。人皆な自立し其台壇上に居するとを自覺するに至りて、敎育の能事了る。

眞との謙遜は、眞との自負なり、大いなる天を拜し、聖絕なる德を崇むるによりて、眇平なる自個を卑下するは、頗ぶる貴むべし。左れど之によりて、自立心を無みするにはあらず。尤も切に祈る時は、尤も強く勉むるの時、万身を献ぐるの時は、一心を固むるの時、總てを任する時は、信の尤も固き時

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なり。到底自己を忘る可らず。今の宗教家は、人をして自己を弱めしむ、之れ教育家の決して爲さゞる所ろ也。

五　文字、眞理

書は何故に尊とき乎、人の思想を印象するに由る。人の思想は何故に尊とき乎、吾を導びきて眞理に接せしむるに由る。左れば、書の用は到底人を眞理に導びき、人をして自から眞理を自認自覺せしむるにあり、既に此に至れば指を忘れ書を擲つも可なり。左れば教育家は、文字を崇拜するを悪み、書を偏用するを不可とす。書は一種の方便なるのみ。

聖經とは何んぞや、書籍中の最とも尊ときもの也。左れど亦書なるのみ。何の書ぞ、天道人情を尤とも切に感じたる先輩の遺書なるのみ。吾等が此に對するや、其文字を崇拜するにあらず、其思想を暗誦するにあらず。此書を通して、自己直進、天道人情の眞理界に出で、自認自覺するを要とす。ダビデ、モウセ、ポウロ等が、之を識れる如く吾等も亦た之を直覺し、判斷し、認識すべし。彼の諸記者は先輩なり、左れど、先輩は其思想を吾等に强ゆる能はず。吾等は先輩と均しく、亦た私考解釋の權利を所有す。

雜録

人を救はんとて

權謀を用ゐ欺きを爲すの善悪

明治女學校此期の倫理試驗には、奴隷を使役するは何故に不善なりや。職業に貴賤尊卑の別ありや若し有とせば何に由りて其別を生ずるや。などの問ひあり。外に一つ、右に掲ぐる如き題の問ありけり。之に對する答へを例の如く類分けにして、其大畧を示す。

（一）

今ま人の危急に際して之を救はんとする時、眞の道を說きて而して后ちと思へど其暇まあらず又其策なし、遂に止を得ず權謀なりとも以て人命を救はんとしたる也。凡そ欺きは人を愛せざるより生ず、去れど此人は他を救はんとて之を欺むくなり、欺く人は其權謀の悪しきを能く承知す、承知して欺むくは一層不善なれど、もし他をして命を落さしむれば亦詮なし。故に之を欺むくとも先づ之を救ひ助け、后に至り之を謝しなば、彼も必らず瞭解し感じて善に返るべし。是れ二人を助けしと同樣なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(二)　人は熟考するを大切とす、何事にも心を落付け考ふる時は己れの器量丈けには考がへ得らるゝものなるに、急の場合にては、判斷しがたきものにて遂に輕斷となることあり。凡そ人を欺むくは倫理上の不善なり、何如に人を救はんが爲めとするも尙ほ惡しゝ、是れ未だ考の足らざるが爲めなり、能く〱考ふれば、他に法を得、必らず欺むかずして救ひ得るの道ならん。故に人を救はんが爲なりとも權謀を用ゆるは惡なり。是れ熟考すべき所ろなり。

(三)　欺むきにあらねば救ひがたしと思ふは、尙ほ至誠の足らざるなり、至誠足らずば十分の救ひを爲すと能はず、人もし眞とに他を愛するの念切ならば、他の急難を見ると共に同情の心勃然として起り、道を迂回して權略を爲すなどの餘裕ある可らず、直ちに進んで眞實に救ふべきなり、故に欺むきを爲すは未だ足らざる也、固より惡しき也。

(四)　成程、人を救ふは善德なり、左れど此善を爲すと共に嫌ふべき惡計を爲さば、今ま行はんとする善德も此の惡德の爲めに打消され、何の効德もなかるべし、自身人倫を破るのみか世に向つて惡例を遺す、世人は之を見て將に言わんとす、「人を救ふ爲には他人の物を盗むも妨げなきか」又た「人を救はん爲には他人を殺すも害なきか」と。かゝる惡念を世人に起さしむるに至らば、唯一つの救ひを爲したる結果は、反つて多くの人を墮落せしむるにて、到底眞の救ひを爲したるものにあらず、例へば、鼠小僧など、所云る義賊の如し、其惡感化を遺したる毒害は、一つ二つの美功を償ふに足らず。故に妾は思ふ、今ま人を救はんとする時、權謀の外には何如にすとも他に良策なしとせば、寧しろ救はざるを善しとす。諺に、善を學ぶは難しと雖ども、惡を救ふは容易なり」と、左れば、世人は、人を救ひたる善の方に目を着けずして、權謀の方のみに注意し、之を惡しきとも思はず、切りに倣ひ行ふに至らば、由々しき大弊害なり。故に、人を救ふ爲なりとも、權謀を行ふは、大害なり、亦不善なり。

(五)　止を得ざれば、小惡を爲して大善を行ふ、今ま欺むくは止を得ずして行ふとゆへ小き不善なり、人の危きを見棄るは大不善にして、人を救ふは大ひなる善なり、故に小惡を敢てして大善を行ふ。況んや、自からは多少の惡を爲すを

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

も顧みず、他を救はんとの義に勇むは眞の愛なり、我身を墮落せしめて、人を救ふ也。

(六)

人に心と肉とあり、肉を救ふより心を救ふ方重し。欺きを以て人を救ふは、人の心を救ふに非らず。われ道を守るが故に人の肉の死するを止を得ず傍觀すとも差支へなし。凡そ、惡の道を通りて善に達する能はず、欺きによりて正しきとを行ふは到底出來がたき者也。

トルストイ伯を訪ふの記(下)

雲峯子

最初に伯が心づきし所は、救ひに入の方法如何にして、第一には「如何にして同胞の爲に盡し得る所の謙遜と力量とを養ふべきか」てふ問題起り、是に對する答案は、聖書に敎ふる「汝の敵を愛せよ」との一言なりしとぞ。是等の諸點は舊時の伯を殺して新生命の伯を生出せしめたる上帝の武器なりき。されば先に云る伯の二傑書は、其武器の爲に滴りし血滴をもて書けりと云も不當ならじ。其頃、伯の腦中に一大疑問とぞ起りたりけれ、そは「平常の生活習慣等を新主義に合しめんには、如何にして可なる可きか」てふ事なりき。此事につきては、伯其一身の爲にのみ計るにありせば、左程困難にもあらざりしならん。さりながら伯は、妻君及び八子ありて、之が爲めに顧るなきは實に人情の許さゞる所なりしかば、此に苦慮せらるゝ事一方ならざりき。自身を思ふて他を考へざるは凡人庸者の事のみ。伯に於ては然らざりき。故に斯る場合に於て、要せしものは、伯を助くる天女にてありしなり。是即ち彼の伯が夫人にして、伯に於ては恰も天女を人に擬せるが如くありき。蓋し夫人は、賢明有力にして、よく伯の心を知り、眞情もて伯を慰め、伯の心中混亂復雜せる時に當り、そを整頓せしめんと務めけり。家庭の秩序を亂さず、伯をして家系を絕つに至らざらしめしは、職として夫人の力に由れりと云ふ可し。

産を棄んか、産を善用せんか

金力を以て購ひ得べき權力位置の如きは、總て之を放擲し、自らの手段により、額に汗して以て生活せんと欲せしかば、先祖傳來の遺産は已れに用なしとまで、伯は思へりとぞ。若夫人に八子なかりせば、伯は其財産を悉く分與せしならん。されど楯も之を兩面より見れば其色同じからず、一事に對しても人によりて感想の同じからざるは當然なり。伯は幼けなき時、金

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

銀財寶の爲めに生ずる任務ある事を知らざりき、されば、世の富貴は之を棄てゝ救主に近從はんと欲せり。夫人は之に反し、富貴なる人は、之を所有する爲めに聖善の天職ある事を信じ、救主の命に從ひ、其財寶を巧みに整理し、實用に供すべしと云へり。此處に於て、伯が一家の財產は、之を擧げて夫人の整理に一任する事とぞなりにける。若伯と夫人と眞誠の愛情及び尊重とによりて立てるに非りせば、斯る大事件の調和は殆んど成ざるべかりしに、よき夫妻の親愛こそ如何なる困難にも勝ち得るなれ、即ち良人は富を棄てんとし、夫人は之を否とするが如き場合にも、兩者其信ずる所を行つて、尙且つ和合し得たるあり。伯は、其勞力によりて得たる所を直ちに夫人に渡し、以て平常必需の衣食を供せらるゝ樣なせり。夫人は、其始めに於て之を承諾せざりしが良人の信仰遂に變ず可からざるを悟り、斷然身を挺して一家の要務に當れり。斯る時に於て、人の妻たり母たるの義務を解得し、其任務を成し遂らるゝは容易ならず。夫人の如きは蓋し不世出の人なり。

伯爵婦人大藏大臣

此一事の起るまで、夫人は只其子等八人の養育にのみ專ら心を傾けたりしが、是より其事務大ひに加はり、田舍なる伯の別墅及びモスコー府内の廣大なる本宅をも併せて整理せり。加ふるに、伯が文學上の著述に大ひなる助力を與へたり。即ち、伯の原稿を謄寫し、或は之を佛語に譯し抔して、一方ならぬ力を添たり。尙又之に加ふるに、一家の歳入と地方の所有地に關する事をも整理せり。伯が一生の著書を集めて悉く之を出版せんとせしが如は、實に大事業と云ざる可らず。蓋し露國に於ては、出版の事に關する當局者、伯の意見に同意せざるが故に處置實に煩勞極りなければなり。一瞬時と雖も、安逸を貪る事なく幾多の大事を成し、尙良人及び其子等の衣服をも手づから縫ひ着するてふ夫人の働きこそ實に驚嘆するに堪たれ。夫人は幼きより、奢侈の風に慣れしにも係らず、節制儉約以て伯の新主義に合ふ樣、己が意想を犧牲にする事少しとせず。思ふに、伯の人物の偉大なる事を知れるは、夫人に如くものあらじ。

天國に似たり

ソロモン嘗て完全なる婦人の資格を述べしが、トルストイ夫人は之より更に勝るものと云可し。何となれば、ソロモンの書きたりし性質に加へて、尊嚴威大の姿と、秀麗優美の容貌と、純白朴直の擧動とを有すればなり。其心靈の偉大ある事は、其

身に一種の光彩を沿ふるかと思はる。
此兩親あり、其子等亦誠に活潑温厚なるは、稱くに足らず。一家親密にして、閑地の別墅に樂しく住むが如し。されば家庭の出來事、一として伯を惱ばしめざるものなく、伯は之が爲めに其勉强上の進歩容易く捗るなるべし。

君子の德

伯が平常抱持する所の心事、甚だ寬大にして「惡に敵する勿れ」てふ主義に基づく。伯の所有地に住むものにして、不敬不直の輩少なからず、されど、亦た伯を尊敬信任する著しきもの多し。或日農者相集つて相談せし時、人々各々が心のままを大勢にて云ふのみ、更らに議事の纏るべくもあらざりしが、伯の會議に臨むに及んで、涌くが如き衆聲頓に消え、塲中靜肅たりき。伯直ちに發言して、議事忽ち終りたり。是伯が國民に尊敬せらるゝが故に外ならず。伯が其知己と集つて組織する所の集會に、數度臨みしか、何人も伯を尊親せざるものなし。伯が憐憫の情は、强きに失すると云ふを以て非難する者あれども、伯がよく其行爲を言語に近からしむるを以て、即ち言行相沿ふを以て、何人も滿腔の尊敬心を起さゞるはなし。
伯が今日の如き質素節約の生活を爲すは、實に伯に於て克己制抑の念强きが爲めに非るなきを得んや。伯もと高貴の家に生れ、奢侈虛飾の風に染みたればなり。然るに、「行きて汝の所有品を賣り、而して我に從へ」と云へる聖旨に從ふにより、よく伯の如き行爲あるを得るなり、多感多血伯の如き人にして、而して己を制し、惡に敵せざる寬恕の心を有つは、眞に感服の外なし。

チー神よ

斯の如き偉人に面會するを得て、斯の如き經驗を得たるは、喜ぶべきの限りなり。余等は一度伯を訪問す、其時得たる親愛の心は長く消失せざる可し。是世上に其類少き家庭にして、此に於て熱愛にて厚遇せらるゝ時は、何人も「ア、神よ、トルストイを惠め永く彼の健康と彼の一家とを守れ」と、祈らずして立去り難かる可し。

談話の巧拙（上）

天知子

東洋に啞の國あり日本と言ふ、其人民は饒舌らざるを以て此上なき禮儀とし、寡言を以て君子の風なりと信じ、殊に婦人

は奥床しくも口を噤みて其謹愼を唇にて嚙絞るなり、食ふ時は蚕が桑葉に集ふ如く聲なくして專心唯食ふのみ、路往く時は相携ふる夫婦すら殊更に面目を繕ふて談らず最不興氣に歩むなり、持論あれども演說者少なく、詩想あれども詩の聲乏しとは、是れ西洋の饒舌人種が日本人民を罵りたるの文句なり。此語は端なく或一部の婦女を刺擊して、一時は頗る婦女の謹愼なる美德を打破せんずる勢ひなりし。原來日本の女性は、輕からんとし、跳んとし、多辯ならんとし、考へざらんとす、故に敎ゆるに重かれ鎭まれ考慮あれ而して寡言にして實行せよと言ふなり、然れども此敎風流下し來るの久しき、終に不熟練なる不心得なる談話者となしつるの弊を生ずるに至れり。固より饒舌過ぐるに失せし彼國の女風は好ましからず然れど餘り少なきに失せし談話の弊風は更に厭はし、此不熟練なる談話家は、言はざる所に餘り多くを言ひ、言ふべき所に餘り少く言ふの不心得あり、此に於てか知らん、無益の多辯者は必ず有益の點に不辯なりと言ふ事を、余は今談話に付て上手と下手とを辨ぜんとす。

談話上手

談話上手と言ふ事は普通に所謂「お世辭」に巧みなりと言ふ事に非ず、能く人々の智識を引出して一坐公平に談るを得せしむるを言ふ、故に幾種の人集る時は漫りに己れの愉快を恣にせんとして、無作法にも一局部の專門談を爲すべからず、普く普通流用の事件を談話の中心とし、而して其客の長所に付て談ずるを要す、是れ其人をして愉快なる談話の折を與ふるのみに非ずして、其智識を充分に逞ふせしめ以て互に益するものあればなり、且多く問ふ人は多く知ると言ふ如く、普く問を與へて又問はしむるの折を與ふべし、要するに談話の對手ある事を常に忘る可らず、我れのみ談るに頓着なく、他話を聽くに疎なる者は、之は是れを忘れたる者と言ふ。談話に精神を注がずして上手ならんとせば、之を輕薄詭辯者の巧みに等しくして、吾が上手と言ふ者に非ず、談話は舌頭にのみ現はるゝに非で、其精神の熱する所、眼も言ひ手も談り顏も言躰も話す、親切ならざる談話は唯口頭物言ふのみ、其聲は響の如く風の如し、聽く人益なく愉快なし。折々目を閉て談る者は談話を分別し分析せんとする人、視線を我れにのみ注ぎて輕々しく迷はざるものは其談話を注入し吸收せんとし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

て意志を亂さゞるの人なる事を知るなり、視線の注ぐ所動ぐ所は實に其人物を表はし其熱心の度を代表するものなり。婦人は對手の羽織の紐あたりに目を注ぎて折々其目を見よとは古ゑよりの敎えなれど、中々道理なる考えあり、傲慢ならず怯懦ならずと言ふ中庸を得たる注目方を案ぜしなるべし、能く人に付て經驗し見よ

歡晤の一席

諸雲子

おのれ頃ろいたつきにて花見だに思ふに任せずつれ〴〵の餘り書架を搜るに古びたる篋中に誰が手に成りしにや分きがたかどれ綴ひし塵紙やうのものありその中に就き耳新しきもの一つ拔きつ。

明治のはじめ、大學校別當松平公はじめて開成學校に入來ありて、生徒の物まなびするさまを巡見せられ、校内の居留の敎師フルベッキ、ブーセー、パリー、ガロー、メイヤの五名に面會し、續で筵を開て饗應あり。少監秋月侯及大少丞中少博士其席に列す。主客語を異にすれども、フルベッキ氏は既に我邦に留寓すること殆ど十年にして、能く日本語に通ずる故に、英佛の話を日本語に譯して、松平公に語り、或はその應對に代りあどして、歡笑頗る興あり。松平公の詠ぜられし歌に、

睦ましくこと國人とうたけする
けふの嬉しさ何にたとへむ

此歌も、例のフルベッキ氏が本國の語に譯して、四人の敎師に聞かせしかば、各感謝の詞を述たり。おなじ折によめる歌、

折しあれは千里の外もゐなからに
見ることゝちするけふのまとゐや

近三年間に於ける米國婦人の大進歩

米國もろ〳〵の婦人會、もろ〳〵の進歩婦人が、三年に一度悉皆開會する、米國婦人國會と云へる會あり、三年前に初めて開き今年第二回を催す。會頭、フランセス、ウイラード例によりて會頭演説を爲されける中に、左の一節あり、米國婦人駸々乎、馳々乎たる大進歩の實况目に見るが如し。

「時間」といふものは三種に用ひ得べし、即ち之を殺戮するか、之を徒費するか、若くは之を利用するかの三つ是あり、人々世に生れ出し時は各一生涯に用ふべき「時間」を有するなり、此時間は吾人が勞力を盡さずして得たる財寶なり。

光輝匆々、吾人が此處に議會を設けしより已に三星霜を過しぬ、されど此三年間は女子の勞力せし効果著大にして以前の

十年間に爲せる所に勝るもの多し、今試みに女子が三年の間如何にして時間を費せしかを問へば蓋し明かなるべし。吾人が今右の問につき答案を求めば面白からんと思ふ人を指すべし(一)フヰリッパ、フォーセット女史はケムブリッヂ大學にて優等點を以て卒業せるにて名高き人なり(二)アルフォルド孃、即ち古文學に長せる人なり(三)ヘレン、リード女史、我ハーヴァード大學にて有名の人なり(四)ベラスコー女史、パリスの法學校にて最高點を卒業試驗に得て代言人となれる人なり、とは謝禮なくして貧民の爲めに代言辨護の依賴に應ずる爲めに法律を修めしとなり(五)フロレンス、ホッランド女史、昨年カルコッタ大學に於てラテン語及び英語に於て優等生なりし(六)此他近年世に現はれたる書物に徵せよ、文學社會及び新聞雜誌に於て女子の作れる所甚だ多し、殊に小說に至つて、近年最も世人が好尙するものは多くは女子の手に成りしと云ふも過言に非る可し(七)ブレッキンリッヂ女史、とはヱベリン神學校の卒業生なり(八)ドレーク夫人、アイヲア州に於て開きし組合教會牧師會に於て傳道師に撰ばれし人なり(九)グリーンウッド孃、國民傳道會社の監督者にして其部下の婦人傳道者七百人に餘るといふ(十)カザリン、ドレックセル女史、去る二月十二日女史は其一身を印度人及び黑人の爲に獻げ、其財産七百万弗を彼等の宗敎上、敎育上、社會上の進歩を助けん爲めに犧牲に供するといふ。世人一般名を是求め、利に是奔るの今日斯る聖潔の女子の出でしは一大美觀と云ふ可し。

女子は過去に於て如何に其時間を用ひしか、試みに(十一)ニウヨークの博士エミリー、ブラックウェル女史をして醫者社會に於ける女子の狀態を述べしめば其答は即ち下の如けん、過日女史より受取りし書簡に左の文あり、曰く。

女子にして最初に卒業證を得たる人はエリザベス、ブラックウェル女史にして今より四十二年前の事なりき、然るに今より十一年前に於ては卒業證を得たるもの二千四百人なりき昨年に於ては恐くは之に倍せしならん、支那に於ても百五十人あり、ヒンドスタンに於ては夫れ或は之に倍せんか云々と、(十二)ボストン府のグリーン孃をして答へしめば左の如けん、曰くアイヲア州にて一人の女史を代言人として法廷に入れしは今より二十二年前の事なりき、然るに今日に於ては百十人の女子代言人あり、其内に數人は高等法院に入るを許

されたり。

今日我國(米國)の公立校教師百分の八十三は女子なりとの事實を考へ見よ、二百有餘の女學校には四千有餘の女學生あり女子職業學校の設けなき國は非ず、女子の教師を入れざる學校は今日全國に二十計りあるのみ、過般ペンシルヴァニア州にては女子大學の建設ありき、ニウヨークにバーナード大學起り、レランドスタンフォード大學、シカゴ大學共に女子の入學を許す事となれり、此外各教會の神學校には何れも女子の入學を許し、浸禮教會及び他の幾個の教會にては今女子をして最も樞要の議會に加はるの權を與へたり、キヤソリック教の外何れの教派も皆地方會議に於て女子に選擧權を與たり、嘗て美以美教會の或會議に於て女子に男子と同等の權を與へざりしが之を二百万の信徒の投票に問ひしに百中六十二の比例にて遂に教會に於て男女同等の事を識認せり。

新作小説 紫海の嵐　みさを

信長時代、熱信確聖切愛の基督教徒の爲めに、實説を基ひとして情を活かし、

次號より數篇の小説を掲ぐ。

小説

マイルス、スタンヂッシユの戀

亞米利加の大詩人ヘンリ、ウヲルヅウヲルス、ロングフエロー氏の長篇なり、氏の詩本と聲調を以て勝つ、今之を散文に譯す、讀者宜しく原詩鈴の如し譯文鐸の如しとして見るべきのみ。

愛山逸民識す

第一回　マイルス、スタンヂッシユ

昔し歐洲諸邦の民が亞米利加に殖民せし頃、清教徒の移住せしプリマウスといへる土地に在りし簡樸なる一家の室内を右往左往に軍人らしき歩樣にて歩みつゝありし清教徒の尉官マイルス、スタンヂッシユといへる者あり、身には「ダブレット」胴衣と「ホース」股衣とを着け、コルトホン製の革皮にて造りたる長靴を穿てり。彼は思案の中に深く埋れて、雙の手を後ざまにし時々室の壁に沿ひて立派に吊しある輝く己が武器=腰刀、クサリカタビラ、尖の少しく曲り怪しげなる亞刺比亞語の記しある、彼が平生其運命を打委かせしダマスコ製の劍、此等の下の片隅にある種々の銃など=を打眺めては立休

ひぬ。彼の身幹は低けれども強固に見へ肩濶く胸胖くして筋骨恰も鐵の如くなり、顔は胡桃の如き鳶色にして褐色の髯は孟冬の雛の如く既に白雲ぞ降りかゝりける、彼の傍らにジョン、アルデン坐りぬ、個は彼の朋友にて彼と同居するものなるが今窓の側にて松にて造りし机に向ひいそがはしげに物書きてあり、うるはしき其頭髮、青空色なる其目、立派なる「サクソン」風の顔色とは其青年の露を含みてうつくしく、往時聖僧グレゴリが是れアングルスにあらずして「エンゼルス」天使なりと叫びたる彼の捕虜にさも似たり、個ぞ五月花と名づけたる船にて此土地に移り住みし人々の中にていとも若きものなりき。」

プリマウスの尉官マイルス、スタンヂッシュは其心に誇るところやありけん、遽かに靜默を破りいそがはしげに物書けるジョン、アルデンに打向ひ曰けるは恰も調練の點呼の時の如く綺麗にみがきて此に吊しある此等の武具を見給ふべし、此ダマスコ製の劍こそ余が此を持してフランダア人と戰ひしものなり、此胸甲こそ、余は猶當時を忘れもやらじ、或る小戰の時余が生命をすくひしものなり、此前面を見られよ、是ぞ西班牙の軍兵と戰ひしとき余が心臟をねらひて放ちたる敵丸の迹なるぞや、若し此鋼鐵徹つせば、マイルス、スタンヂッシュの骨は此時既にフレンスの澤中に埋もれて永く世に忘れらるべかりしなり ジョン、アルデンは答へて曰へり。誠に神は銃丸の勢を弛め給ひけり、神の惠は御身を救ひて、御身をば我等の盾、我等の護兵とはし玉へりと。されど彼は猶うつむきて其の筆を止めもやらず、尉官は少年の語に心を注めざるが如く猶も語を繼ぎて曰けるは。見られよ、此武具の輝けると猶武庫に在るが如し、是余自ら之を取扱ひて他人に委ねざればなり、爾曹自ら爲さば善く爲すを得べしといへるは誠に格言なりけり、故に余は余が武具に心を用うることと猶御身の御身の筆と墨斗とに於るが如し、扨又現今余に屬する兵士、余が無双の大軍勢とも云ふべきは十二人にてあり、彼等は皆火繩銃其他の武器を用意し、糧食及分捕物の外に一ヶ月十五「シルリング」を給せらる、而して余はシーザルの如く余が兵士の名をば悉く知れりと彼が斯く語りしとき恰も日影の波上に躍るが如く其眼に微笑を示せしが瞬く間にき へ失たり、アルデンは物書きながら打笑ふ、尉官は猶語を繼て曰へり。見

よ御身は此窓より會堂の屋根に高く据へられたる余が忽微砲を見るならん是ぞ異邦人をして自家の罪を認めしめんが爲めに確然として犯すべからざる正經の論法を以て說敎する所の敎師なれ、印度人の攻擊に對する、我々の用意は既にとゝのへりと思ふ、彼等若し來らんと欲せば來るべし、直ちに忽微砲の能く其務を遂ぐるや否を試むべけれ、彼等若し來らんと欲せば來るべし、酋長も來れ、渠魁も來れ、巫覡も來れ、「アスピチト」も「サモセット」も「コルビタント」も來れ「スクワント」も來れ、「トカマハモン」も來るべし。

彼は窓に向ひ久しく立ながら思に沈みて外の景色を打眺めぬ只見れば森林、草林、丘陵ともに冷かなる灰色の霧と濕氣を帶びたる東風に爆されて午后の日影と日向の下に鋼鐵の如き靑色をなせる海岸は靜に哀しげに横はれり、彼の顏は此光明と暗憺とを混じたる光景に左も似たる影を隱顯せり、彼は休息の後、感慨、憐愛、悲哀に得堪で低ふなりし聲にて言へり。

彼所ある海邊の丘陵にはローズ、スタンヂッシユ前妻の名ぞ葬られて横たはれり、彼女は余の爲めに路傍に咲ける愛の美しき薔薇花にもなるべきものにて「五月花」にて移住せし人々の中にて最も早く失せたりき、彼女の上に生茂れる綠野こそ余が播きし麥畑の成長せしなれ、斯くして印度人の斥候が之を數へて多くの味方が失せしことをさとらざる樣に味方の墳を隱せしは善きことなりけりと彼の顏色は慘然として變れり、彼は上下に步み始ぬ、いと物思はし氣に。

向ひの壁に書架ありて、其中に大さも釘も殊に勝れて見えし三卷はバリエル氏砲術案內倫敦のアルサア、ゴルヂンヂーが羅典文より飜譯せしシーザル傳及び其中間に夾りて恰も此二書に護衛せられつゝあるが如く見ゆるは聖書なりけり、彼は暫く其前に立留りて三書の孰れを撰びて慰と樂とを得べきかと思惑ひし樣なり、此軍事に熱心なる「キリスチアン」に適當せるものはヘブリニー人の戰爭なるか、名高き羅馬の軍隊なるか、或は砲術なるべきか。終に彼は其書架よりシーザル傳を取下し窓前に坐し默して之を翻せしが、其よごれたる一枚一枚の端は拇指の迹いと茂くて蹂躪せる足跡が戰爭の烈しかりしを示すが如くなりき、此時室中寂然として只聽ゆるものは靑年アルデンを云のいそぎつゝある筆の音のみ、彼は今明朝か若くは必らず明日には出帆せんとする「五月花」に托せんとし

て大切なる書簡を書つゝあるなり、「五月花」は嚴冬の渾ての消息と共にアルデンが今書つゝある清教徒の處女プリスキラの名と榮とを以て充されたる書簡をば本國に持去べし。

理學

吉田伸

○自然光と入爲光

私どもが日々見ます所の光に、二ッ種類があります、一を自然光と云ひ一を入爲光と云ます、其第一に屬します者は、日月星辰の光にて、第二には電氣の光、燐光も屬して居りますが、最も多く私どもが見て居ります者は、燃燒 Conbution と云ふ化學作用の一種です。

電氣の入爲光は皆樣御存じの通り、彼の國會議事堂の失火で一時名高かりし電氣燈が其主なるものです。されど此電光の中にも自然生の者があることは勿論のことにて北曉（北極地方にて北天の輝くは之なり）稻妻の類は其一例です。

其次の燐光の入爲物は、硫化カルシユム、燐の光等にて、其自然生の者は螢の光、鬼火等です。筑紫の海に時々現はるゝ、著名なる不知火も種々の說がありますが、矢張此燐光の一種ではないかと思はれます、其外金剛石が夜光の玉と云ふ名稱を得しも、全く此燐光を發する故でありませう。

終りの化學作用に由て生ずる光は、私どもが最も能く知て、最も重寶がつて居るものです。即ち夜分に燈すランプの光明や、薪が竈の中で燃えて發する光も等しく皆此部類に屬します、もと石油や薪は炭水二素より出來て居るものなるに、熱の助けに由て空氣中の酸素と化學抱合を爲して光を放つのであります。

○光と熱の關係

又固躰を強く熱しますと光を放ちます、博士ドラペル氏の近頃の試驗に由りますと、諸物皆華氏九百七十七度に熱すれば光を發するとのことです、且其光の强度は熱度に從ふものにて、華氏二千六百度に熱したる白金を、華氏千九百度に熱したるものに比すれば、殆ど四十倍の光を發するそうです。

斯の如く覗るときは、光強きものは熱が強きものなる樣に思はれますが、必ずそうとも限りませぬ。蠟燭の焰の中でも一番熱の強き所は周圍の薄明るき所ろで、其中の最も能く光を發

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

つ所ではありませぬ。遊離水素が酸素氣と結びつくとき放つ光は至て弱く、晝間はよふ々見えるくらゐな焔ですが、其熱の高きことと白金（白金の熔度は攝氏二千度以上なり）の如き熔け難き金屬にても、容易に熔かすことを得るほどです。然るに若此焔の中に白堊の如き燃え難き物を挿入しますと、忽ち猛烈なる光を放ちて電氣燈も一歩を讓らざるを得ませぬ。故に熱が强きに從て光の强くなるのは固體の熱せらるゝ塲合のみに限るものです。

批評

○福岡縣水害史

一昨二十二年の水害を叙せんとて、福岡縣官、百六十四頁の記錄を編み、此頃ろ出版す。讀みて當時の慘憺を想ひ起し、淚せきあへず。

○かな習字帖

小野鵞堂氏の書にて、二號世に出づ。共に古今和歌集の序を認ためたるものにて、筆法優且つ淸秀なり。

○禁酒上の雜誌

禁酒運動の日に〳〵隆んなるは、此上なき慶事あり。或人は、今の禁酒論者は、上戸に向つて說法する乎、下戸に向つて說法する乎と詰り、暗に其働らき振を非難したれど、斯る事を言ふ人は、今の日本に於ける社會改良の運動に經驗なきものなるべし。今日は先づ輿論を一變すべき時にて、未だ其害物自身を退治し得るなどの時勢にはあらず。故に廢娼論に於ては、先づ公娼滅すべしと說くことの如く、禁酒論に於ても亦た、酒を飲むことを恥づるに至らせ、今の如く祝事儀式に得々乎之を公用するの通弊を斥ぞくることに旨と盡力せざる可らず。之が爲めには、下流よりも上流に說き、亦必らずしも上戸のみならず、總ての社會に向つて說法すると、極めて大切とはなる也。

禁酒上の雜誌にて、世に名高きは、先づ「日の丸」あるべし、津田仙氏之を編輯す、さすがは老實にして且つ面白く、細かきとに能く氣を着けて、讀者を厭かせざるの手段巧妙、密かに其老練に服せずんばあらず。「光」は、曩に「日の丸」に合併し居たるが、此度び都合によりて復た獨立し、常なら

ぬ元氣を以て目下正に照り出でたり、光明赫々、前途彌よ熱中するの趣むきあり、吉植庄一郎氏之を編輯す。日本禁酒會雜誌は、横濱にて出版す、同地の禁酒會頭林蓊氏の編輯にて、曩の日不幸出版を禁止られたるものゝ復活せしなり、熱心にして手硬き所ろ頗ぶる敬服するに足る。東京禁酒會日報は、安藤太郎氏の管督にて、月一回づゝ發す、簡なれども能く盡し、間ま面白き實文章あり。

海外女學

○一婦人の書簡

實况を細かに亦具實に寫し出すは手紙に若くものあらず、而して女の手帋ほど亦た更に細かきものはあらず。近頃ろ、出版せる、ヲスボルン夫人の書簡は、一千七百卅一年より同七十一年に至る間の書狀にして、當時の實情を寫し出すに至極の精細を盡せり、實に一婦人の書簡として見るべきものならず、當年文明の内裏を、すかし見る程に現はし示すに足るなり。

(Political and Social Letters of a Lady of the 18th Century. Mrs. Osborn. London and Sydney.)

○シスター、フヒロメム

佛國近來の文學者は殆んど文學に狂し數日一室に閉こもり、切りに想像を製し、腦裏宛がら狂へるに至りて筆を走らすなどの變行あり。ゴンコルト氏兄弟の如き亦た此類なり。其著、シスター(聖女)フヒロメムが一生の事蹟を記したるもの、彼女が一朝改悔して飜然聖高至愛の務めに身を一任したる由來と心術とを寫すが如くに書現はしたるもの。非凡の出來なり。英人、ラウラ、エンソル女史近頃ろ之を譯して出版す。元著に劣りて光彩なしと云へど、譯字極めて穩當なりと云ふ。

(Sister Philoméne. By Edmond and Jules do Goncourt. Translated by Laura Ensor. London. Routledge and Son.)

○雜書

(1). "Bible Women and Nurses" (A Record of the Work of the London Bible and Domestic Female Mission). Cassel and Co.

(2). "The Strife of Love in a Dream; being the first book of the Hypnerotomachia of Fronceso Colona." By Andren Lany (David Watt).

(3). "Courtship and marriage; with a few Plain words about some other Great matters". by Rev. Harry Jones. (Hisbet and Co).

(4). "Women Poets of the Victorian Era." With preface by Mrs. William Sharp. (Walter Scot).

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

文學

池袋清風大人批（東京案山子の屋社中）

遲日　美野寶

、しきしまのやまと言葉をすさみつゝ心長閑に送る春かな
（昔の葉つみながら　しらす）
評　題に意は直接かなはず

○唯獨り花見て暮す春の日は今朝も昨日の心地こそすれ（のみ）　日高みつ子
評　よく題意に適ひ實情にてしかも趣向新也若し類歌なくば

路　美野寶

、草茂りむかしの跡はわかねどもふみわけて見む木曾の山路
（なつかしき　千代の古道）
評　初五突然宜しからず殊に此題は雜部也草の茂るは夏也留句も宜しからず添刻にて一變せり

折にふれて　山口つる

、有明の月もかすめる此朝はおなたの空に鳥かねぞする
（むかひの里）

春月　尾崎宗一郎

○春雨の露は柳に見えながら軒端にかすむおぼろ夜の月
（夕月のかげ）
評　實際朧月夜に柳の露が見ゆるや否やしらねど詠は甚宜し

、雨をよぶ蛙の聲のさほふなり田中の里の春のよの月
（も　朧月夜に）
評　かゝる際にこそ朧月夜は出すべけれど

家政

○子供は教師あり　山下石翁

諺に、負ふた兒に教えらるゝと云ふとあり、西洋にても、子供は大人の教師なりと云ひて、同じき心を寓す。蓋し、人よく氣を着けて、子供の生ひ立ち、又は智慧のつき方などを觀察するときは、此に大ひなる教えあまたありて、心に發明する所ろ少なしとせず。獨逸國ゼナ大學の生理學講師プレーヤー氏は、智識の發達と題する名著を作り、子供が智慧づくの順序模樣を最と細かに分解したり。例すれば、第一ケ月には、生れて后ち五分間目に光明に少しく感ずるの躰あり、廿三日目に紅色の天幕を見て少との喜ばしき氣色を爲せり、初日より十一日迄は、たゞ目を開閉するのみ、二十五日に至り、他より話しかくる時もしくは頭らを寄する時に目を開閉す、又た第一日には耳全く聾するに同じ、第四日目に手を叩く音に感じたる狀あり、など一々其の發達のもようを記るし、三年半に至る迄で、月々に其生ひ立つ樣を細かに書とめたり。吾人之を讀みて、其精細なるに感じ、或る人の子の生れたる以

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

來、能く心を留めて發達の狀を考ふるに、日本の子は、プレーヤーが言へるよりは生ひ立ち餘程迅速にて、彼が六七ヶ月に至りて漸やく智慧づく事柄を、此には既に四五ヶ月の交に於て仕遂げたるを見たり。

そは兎に角、子供の有樣に氣を着けて深く鑑がみる時は、自省し發明する所ろ極めて多し。吾等が天地間に存する亦猶ほ緑兒の如けん。日に〳〵經驗して智識を增し、未だ見ず未だ感ぜざる眞理を一歩一段に貯蓄し、緑兒が遂に親を認ため、自個を意識するとの如く、吾等も亦天地間の眞父を認ため、遂に宇宙間に存する自個の地位に注意し來らんとす。あゝ吾等亦た此の緑兒の如きか。此に於て、謙だる心油然として湧き、末頼母しき念ひ沛然として起る。

○パヽ、マヽ

西洋の子供は、父をパヽと云ひ、母をマヽと云ふ。此は至つて便利なることにて、子供には至極言ひ易き辭ばなるべし。左れど、其の初め、パヽと云ひマヽと云ふは、敢て父母など言ふの心持ありてにあらず。少しく言葉を發するやうになれば、先づ、かゝる音を自づと出ずによりてなり。子供が、聲を發するや、最初は、ウクーン、ウー、などの如く專ぱら喉よりす。其次には、マミムメモ、パピプペポなどの音にて、專ぱら唇を用ゆ、此頃ろ多く發する音は即はち、パヽマヽなり、斯てパヽ、マヽ、の二語は父母と云ふ意味に定まるやうになるなり。暫らくして、舌音となり、スチヤー、シツチヤー、などと云ふ。吾人が、パヽ、マヽ、に於ける觀察と思考とは右の如し、尙ほ經驗ある人の說を聞かんとを欲す。

○父母は一進化す

子供を持ちてよりは、是迄に氣の附かざりしと、さま〴〵と心づき、觀察力頓に擴張したる心地のするもの也。或る母は言へり、出產の際み、赤兒が出世間の第一破聲を聽くと其がまゝ、心中一變したりと。又た、從來子供に頓着せざりしものも、自から子を擧けてよりは、到る處ろに子供が目につき、彼は顏だち好し、彼は丈夫氣なり、彼は虫氣あらん、など不思議にも一々感ぜらるゝやうになる、則はち觀察の區域の頓かに擴張したるなり。妻を持ちて、愛を覺る區域廣がり、喩へば、階子を數段登りて、天地を見る廣さの加わりたる如き心地す。更に子を得てより、亦た新らしき經驗あり、自から

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

此に至らざるものは覺りがたきなるべし。人生れて娶り亦嫁し、生み亦た死す、一生の進路、日に〳〵吾等に新らしき智識を與へ、年々天地の奥妙を覺る、樂しきと幾干ぞ。

○緑兒を敬せよ

今の父母は、子供をヲモチヤにし、玩がら之を弄ぶが如し。彼等は天地間の一人間を預かり居ることを覺悟せざるなり。若し奴隷を用ゆるとの不倫不正なることを知らば、父母と云へども自己に屬すべき人間は一人もなきことを知るべき也。其子はたゞ自己が娩する所ろの一人物なるのみ。愼しみて之を重んじ、敬して之を愛すべし。其育て方の惡しきは、神の寶を損するに均し、之を善く育つるは、神の榮えを顯はすに同じ。我は教育者なりと云ひて、先づ其子を重んずることを知らざるものは何如にして人の子を重んぜん、我は女なりと云ひて、其子を嚴そかに淸く愛することを能はざるものは、何如で、他人に眞の愛を寄するを得ん、好くとは愛するにあらず、弄ぶとは愛するにあらず、自己のものゝ如くするは重んずるにあらず、勝手にせんとするは敬するにあらず。夫れ、父母が其子を尊重するは、眞の育兒の初め也、眞の教育の初め也。

隨感

春の野邊ありき

みどり

櫻は咲きぬ、散るぞ憂き。左れど花は惜氣なく、風に連れて心地よく飛散り、ヒラ〳〵として舞ふさまなり。流れに乘りては、輕舟の如く走る、あゝ咲くにも散るにも失するにも安心はありけり。野邊のすみれ、笑へる顔ばせにて通る妾わを見つめたり、立とまりて之に面合すれば、香を發ちて妾をもてなす、摘て持ゆかんか、彼は露を拂つて身を動かし、可し今起んと言ふ樣なり、左れど邊りのすみれ皆な顔を此方に向け、君行き玉ふや、われ等を遺してかと言ふ。笑ふさまにも見へ、亦惜しむさまにも見ゆ。皆遺して遲々立去れば、香氣久しく去らず。家に歸りて、夫に語れば、良人は妾わが心中の尤も微やかなる思想を悉とく直悟し、同情を賜ふ。娘も勉めて之を悟らんと、切りに打ち案ず、心根哀れあり。春は實に樂し、左れど秋も悲しきものにはあらず。悲しきは心にあり、心悲しければ、何ものか悲しからざらん。天地を好きホームと見れば、何處に行くとして樂しからざるべき。

兒籃

もみぢ

○兒もり歌（二つ三つ）

（一）

ねんねよ、ころりや、ねんころや。
ねんねの、をそばに、だれが居る。
マーマや、パーパや、おばあさん。
をそばに、おそばに、だれが居る。
マーマや、パーパや、おばあさん。
ねーても、さめても、いつまでも。

（二）

よい子の、よい子の、おぜうさん。
ねんねの、おみやに、なにあげよ。
きんによ、やぶつた、犬はりこ。
をとゝひ、こわした、せうの笛。
ねんねよ、ころりや、ねんころや。
ねんねの、お目ざは、たんとある。

（三）

ねんねよ、ころりや、ねんころや。
ねんねの、をつれは、どこへ行た。
めんめを、ふさいで、どこへ行た。
ねんねの、をつれは、ねんねして。
めんめを、ふさいで、ねんころや。
ねんねよ、ころりや、いつまでも。

笑ひ草

うらなひ

ふみ子

人間萬事塞翁の馬とはいへ、其成り行きを考ふれば、皆靈妙不可思議なる、神の攝理に基かざるものはなく、禍福吉凶とも一として偶然に生ずるものには非るを、夫等の眞理を悟らざるの人は、禍福吉凶を以て全く偶然に歸し、人力の得て如何ともなすべからざるものと思惟するを以て、扨こそ福に逢ふも樂しむことを得ず、禍に陷りて福に進むべきの道を知らず、遂に生涯を無我無中に、或は失望落膽の裏に送りて、始終安身立命の地を得ざるなれ、嗚呼人此世に生れたる上は、誰か禍福吉凶なからめ、只常に一定の信仰を有するものにして、始めて禍福吉凶の外に立ち、いつも平和に、且愉快にてあることを得るなり、若し人世の出來事を以て喜憂の種子となすのみならば、人間の此世に於ける、實に苦多くして樂しみ少なく、生き甲斐もなきものならむ、去れば人世を、塞翁の馬に譬ふるは一應宜し、されど塞翁の馬と看做し而して後如何の途にか進むべき、是大に吾人が覺悟を要すべき問題にこそ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

先頃國會に於て、政費節減の結果として、各省ともに改革の擧あらんとするや、官吏中非常に心を痛めたる人あり、未だ非免の沙汰を蒙らざる前に、疾く書を寄せて、田舍の親族に相談を試むる人あり、或ひは急に家を轉じ、下婢に暇を取らすなど一かたならぬ騒ありしと。中に就き、或る一官吏の細君は、良人が非常に物思はしげなる容貌を案じ、てつきり免職の心配と判斷してはなか〳〵に心落付ず、責てもの氣休めに、易者に問ひ試みて、其覺悟をも定めばやと、一日竊てより噂に聞く、本鄕邊の賣卜者の家に至り、良人の運氣如何を尋ねしに、易者はいといかめしく筮竹を繰り、良人の年齢、性質、奉職の年限などを聞き、咳一咳して曰く、非職の事は受合はれねど、万免職の氣遣ひはなしと、細君は非職ならば先づ責てもの幸なりと思ひつれど、猶念の爲にと押返へして質せしに、易者は確に非職ならむといふ、左はとて細君は家に歸りて、稍安堵なし居たるに、其翌日良人は官省より歸り來り、いと不興氣なる容貌にて、洋服のかくしより何か書付めきたるものをとり出て、机の上に置き、ものをもいはずして外出しぬ。夫の擧動いぶかしきまゝ細君は何事にやと彼書付を披き見るに、思ひきや、本官を免ずてふ、あわれ死刑の宣告書よりも猶ほつらき辭令書ならんとは、餘りの事に細君はハツと氣も顛倒せしが、きつと思ひ返して、先づ憎きは彼の賣卜者なり、彼漫りに妾を喜ばせつる爲め、兼て期したることを、今更のやうに寐耳に水の騒ぎとはなしぬ、いよ〳〵責てもの腹慰せに、今一應彼易者許に至りて、其八卦の違ひしことを責めばやと、直に車を飛ばせて、昨日の處に至り、易者に逢ひてしか〳〵と告げ、何故妾を欺きしやと詰る、易者はいとも落付きたる調子にて、全躰あなたが、私の詞をまる〳〵信ずるのが間違つて居る、私は夫れが爲に看板に正直なる處を記し置くなり、先々外へ出て看板を篤と見玉へといふ。細君はいとゞうち腹立ち、再び此處へは來まじきに、今更看板を見て何かせん、只先づ其間違の詑言せよかしと迫る、易者は是非に今一應看板を篤と見られよ若し看板に僞あらば、拙者謝罪せんといふにぞ、餘儀なく出て戸外を見れば、杉の板に墨くろ〴〵と

周易半斷所

と記しありしとぞ。

寄書

花圃女史に謝す

吉田駿逸

花圃女史足下、顧みれば、生が卿の芳名を知るに至りたるは、實に今より四年前、藝州廣島の客舍に於て、貴著藪の鶯を一讀したる時にてありし、當時、生は年齡猶幼にして、分厘の文學思想だに有せず、素より貴著に對し、彼是評する識はあらざりしも、心竊に女史の風采を想望し、天涯隔絶、相遇ふて教を請ふ事の叶はざるを憾みさなしたる事なりき、爾後、京に上りて此に三年、益々高風を想望し、機を俟て拜晤の榮を得ん事を期したりしが、此頃幸に某氏の紹介により、卿の高聲に接し、此に漸く積年の希望を果すを得て、甚だ滿足しぬ。語に曰く「來て見れば聞くより低し富士の山」さ、生は凡百の事物に就て常に此憾を免かれざりしも、卿の風采を觀察するに及んでは、實に想望したりし風采よりも、猶一層崇敬すべき事相に接遇したり、素より數多の高話中、感讃の辭を呈すべきもの一にして止らずさ雖、管々敷此に之を述べざるべし、唯一言、生が卿に接して一層の崇敬心を生じたる事實を述べ、厚く之を卿に拜謝せんさ欲するなり。

熟々近時の文學界を察するに、輕薄才子猥りに横行し、文壇の陣頭、一二の筆を弄し、少しく見るべきもののあるに至れば、早くも大家を氣取り、己れの地位を忘れて、後進小年を輕蔑するの弊あり、試みに彼等の門を叩て教を仰がんさすれば、彼等はイヤに澄まし、イヤに氣取り、侮慢の口氣を以て、面倒らしき顏付を以て、翫弄的の應接をなす、知らずや、ドライデンの所謂、成人は只熟長したる小兒なる事を、生等少年は心神甚だ無邪氣なり、柔順なり、然れども、又勃々さして進取の氣象を有す、故に先輩に對し適當の敬禮を以て、教を請ふに躊躇せずさ雖、彼等に翫弄せられて、恬然默する事能はざるものなり、生等は嘗てより、後進少年を愛する心なき先輩は、到底社會に勢力を得る事能はざるべしさ信じたり、即ち文學者たるものは、筆端に於て社會を感化するのみならず、又精神に於て人を薰陶するの美德なかるべからず、卿は久しく身を文學界に措き、能技、社會の認むる處さなる、若し卿をして彼等の如き輕薄才子たらしむれば、既に〳〵、大家を氣取て證ますべき地位にありながら、毫末も大家振らず、學者振らず、至て飾りなく、至て磊落に、至て懇篤に、即ち生等が頗る滿足さする禮遇を以て、接待せられたるの一事は、同感の後進少年さ共に、謹で之を卿に謝せざるを得ず、卿が社會に敬愛せらるゝ事の厚き、又偶然にあらざるなり、應接、僅かに三四十分の間なりしも、再會を約して辭する頃には、既に數年親愛を受けたる知人の如き心地せり、これ實に清德の感化によりたるものなりさ信ず。

以上は、これ只生が卿さ初度の對面に於て、感じたるまゝを記したるに過ぎず、孔孟の聖、且攻擊の餘地あり、卿又素より之を免かれざるべし、生は猥に人を賞讃するものにあらず、卿に細欠する處は他日聞くに從ひ、見るに從ひ、忠辭を呈するに、敢て毫末の猶豫なかるべきなり。

敬愛なる花圃女史、卿は或る點に於て、文學界の明星たるべき特質を有す、而して後進少年、大に望を卿に屬す、卿希くは自重自愛、筆硯益々多祥、德操益々濃厚にして、普く文海を風靡し、後進の希望に滿足を與へられん事を。妄言多罪。

時事

○內閣のもめ、政治家の騷ぎ

第二回の議會も迫まり居る也、彼此ともめて切角大政の準備出來ずば、國の損大ひならん、早く落付く方よろし。又、政黨員も、條約々々と言ひ居るうちに、號鈴の響あらん。

○小新聞の繪書

人殺ろし、密通、恁初め、の圖を殊更らに書き、小新聞の繪の趣向は、此外になきやうに思へり、政府の取締りも今一と方重からずんばある可らず、民間の輿論も今少しく嚴そかならずんばある可らず、美術家の好尙も今一段進步せずんばある可らず。

○流行殖民

殖民の論漸やく流行せんとす。既に流行となれば成るべく言わざる方宜し。一時の流行により、株金組織により、殖民省により、出稼ぎするは、外人の奴隸たらんが爲めに出でゆく也。吾黨の所謂る殖民とは異あり。偉人物と好ホームとなき間は、決して殖民すべからざる也。

○海外渡航の婦女

憂ふべき醜聞續々として舶來す。抑も之を如何にすべき。多年海外居留地を領して此事に一と方ならず深痛したる安藤太郎氏は云く、何如にすとも取締りの策なし、唯あるもの丶一つは、内地に女傳道師を増し、女德を大ひに進むるとのみ、之れ甚はだ迂なる策の如しと云へども、之よりも迂ならざる策一つもなしと。吾人も亦た然か思ふ所ろ多し。

○東京醫會と廢娼論

淺草區内には兎角廢娼論者なし、なきにあらず同區内遊廓あるの因緣を以て、發言に猶豫するもの丶多きが故也。然のみならず、遊廓の誘ひによりて或物を受領し、存娼論を主唱せんとしたる醫師同區内に起り、東京醫會の淺草支會に其問題を提出して、存娼論に奇勝を博せんとしたり。左れど勿論否決消滅となりぬ。

○婦人官吏

米の合衆國に於ける婦人官吏は、追々增加す。是迄は、主に遞信省内にて雇ひたるが、近頃に至りては、陸軍部内にても亦た用ゆるに至りぬ。パル、マル、ブゼットの記者は云く、男子職工は切りにストライキを爲す、之が爲めに女職工を用ひんとするもの彌よ增す、久しからずして婦人は總べての職務に進入すべし、と。

○女スタンレー

英國の一婦人フレンチ、セルドン、夫人(Mrs. French Sheldon)は、中央亞弗利加探究の爲め、一女婢を隨へて、二月末に都を出發せり。夫人云く、リビンストンも、スタンレーも、皆な殿方なり、今后は吾等女性が代るべき當番なりと。

○米州女子國會

三年一回の女子國會、三月四日に恙がなく了り、役員は左の如く改撰ありぬ、

會頭　メー、ライト、セワール夫人

副會頭　エラ、ヂエッツ、クライマー夫人

次の會は千八百九十五年、和聖敦府にて開くべきとに決議す。

○其決議

一に云く、美以美敎會内信徒の公票によれば、六割二分は、婦女子を其敎會の大會に列席せしむべきとに同意せり、故に同敎會の僧侶諸君も亦之に贊成し批准あるべしとの旨を、建議

する事。二に云く、安息日學校委員、並びに敎會信仰箇條改正委員などに、向后婦女子を加ふべしとの旨を、各敎會へ勸告する事。三に云く、政府に於て婦女子を役用するとき男女によりて、賃金を別にせず、仕事の巧拙によりて之を格分し、以て一般社會に其例を示すべしとの旨を、政府に建議すべき事。四に云く、離婚條例改正會を促がし、政府に勸告せしむる事。

○米洲女權擴張會

右の會と同時に、米洲女權擴張會の年會を催ふす。決議の主なるものに云く、

一。此年度間に、ワイヲミンにて男女に同等の政權を與へ、而して、ワイヲミンは州より入りて邦となり、今合衆聯邦の一となりたれば、今后合衆聯邦の一つには、男女同等の政權ある一箇所ありと云ふ事を得る事。

二。他の二十二聯邦は、婦女子に學務委員の撰擧權を與へ、カンサスにては、市役員撰擧の權を與へ、ワイヲミンにては、國會議員撰擧の權をも婦女子に與へたるは祝すべき事。

問答

司　愛子

●問。吃りで口のきかれないで困るものがありますが、治する法はありますまいか(山城荒木氏筑、甲斐渡邊幸次)●答。啞でさへも口のきける今日、吃りだからさて口のきかれぬとはありません、吃りは神經質の人に多いものです、之を直すのは氣を落付けるが第一です、口を開く前靜かに云ふべきを思ふて徐々さ語るが必要であります、練習すれば必ず治するものです。

●問。佳人さいふ文字さ、美人さいふ文字さは同じ意味ですか、又ちがひますか、敎を願ひます(晴間松子)●答。美人さは容貌の美くしい人を指すやうです、ソシテ佳人さいへば容貌の美くしいばかりでなく德の備はつた人をいふやふです、ナゼさなれば顏色は餘り美くしくなくさも、德の備つた人は佳人さいふとが出來ますが、美人さ申すとは出來ないからです。

●問。學力は今までのさころ尋常小學卒業位の程度で、學資さても澤山ありませず、年もハヤ二十三四になつた女子に適する、年限の短くて卒業の出來る、職業學校がありますか(武藏野のすゝき)●答。明治女學校職業部の主計科がよろしう御坐いましよう、右主計科は七ヶ月で卒業が出來ます、委しきとは規則書に就て御覽なさい。

●問。長男に生れて稍少無知の時に、子の無い伯父の家へ養子にやられ、其後數年立つて、養家に男の子が生れましたが、養父母の恩育は殆んど變らす、無論相等に敎育もして吳れます、併し今は充分に分別力も出來、自然長男で他の男子のある養家を嗣ぐのは心地よく感じません、ケレド私は極めて義理さ平和を欲して、やかましき仕方の離緣を好みません、勿論離緣の事をいへば、伯父は怒るに違ひありませんが、之を平和にして元に復する道はありますまいか、又養家には女子も出來て居ります、併し私は強ち實家へ歸りたいさも願ひません、獨立でもよろしう御坐います(甚子)●答。實家さ養家さ親戚さの會議を開き、自分の意見を公明に述ろが第一でしよう、智慧を用いた策略めいたとなざするは決してよろしくあいさ存じます。

●問。聖書の不審を、ホントウに親切に敎へて下さろお方はありませぬか、但し筆答にて(京子)●答。ソウいふ人のあるとは存じませんが、併し六合雜誌さ眞理さ福音新報の三雜誌は、神學、敎義の質問に應答するさの事です、發行所は、六合雜誌は京橋區出雲町一番地の警醒社、眞理は神田區駿河臺鈴木町十一番地の世光社、福音新報は麴町區三番町十番地の福音新報社。

通信

可愛子編

●茨城縣通信

水戸通信員報

●女教員　本縣には女教員最少なく男教員四百十一名に對する女教員僅に七名のみ是れ本縣に女子師範學校のなきによるならん而して授業生の證書を有する婦人は三名ありて女傭員は十八名あり。

●福島縣通信

樺松生報

●去月三十日福島縣尋常師範學校女子部にて秋月よし子外十六名の卒業生あり當縣に於て女生徒の卒業は今度を嚆矢とす。

●今度東京より來松の海老名りん姉中村紅造宮崎喜藏照井正六佐藤政吉村松源三吉田與八石塚善次郎の七氏相計り若松女學舘を創立し同志社女學校卒業三輪えい孃を舘主に聘することに决せり。

●今度若松高等尋常小學校にては高等科卒業女生十七名あり。

女報

可愛子編

●川村伯邸へ行啓　天皇陛下は去る十日、皇太后皇后兩陛下は去る十一日、川村樞密顧問官の邸へ行啓あらせられたり。

●美術展覽會へ行啓　皇太后陛下には、去る十五日上野公園なる美術展覽會へ行啓あらせ給ひ陳列品を御通覽あらせ給ふ。

●侯爵德川篤敬氏の祖母　登美宮（水戸烈公夫人）は、本年八十八の高齡にて、同家親族一門の繁榮は言ふ迄もなく、同宮の子孫曾孫に當るもの德川諸家松平、池田、蜂須賀、伊達、南部、土屋、足利、井上等舊諸侯の家々を合せて、男女百餘名の多きに至れり、同家にては、去る六日宮の爲めに祝宴を開かれたり、會する者有栖川熾仁親王殿下はじめ百餘名ありて、頗る盛なりしといふ。

●華族の婚禮　松平容大子（舊會津）は、今度松平武修子（舊鶴岡）の令妹友子（十九）と結婚の約整ふ。

●青木令夫人の小集會　青木外務大臣の令夫人エリサベット子は、去る十六日午後三時より同五時迄、裏霞ケ關の宮舍に小集會を催ほし、外務省の勅奏判任官悉皆を招待して酒食を饗せらるゝ由、大臣及夫人等の催さるゝ宴會に、上は勅任より下は六等判任の末た至る迄、總て招待せらるゝは曾て無き事にて、此度が始めてなりと云ふ。

●ドライクリーニング水　は洋服毛織物等を洗淨する藥にして、着服せしまゝ綺麗に汚れを去るとを得、最も輕便なるものなり、發賣所は小石川區柳町二十四番地伊藤組洗染所なり。

●成立學舍女子部女子教育奬勵會　棚橋絢子等の發起に係る同會は、櫻井、吉田、田中、曾我各子爵夫人の發起贊成を得て、明十九日芝山内彌生舘に於て、教育演說、能狂言、琴合奏講談等を催し、其收入金を同部に寄附する由。

●女子職工學校生徒園遊會　神田區一ッ橋通り町の女子職工學校に於ては、去る廿二年四月十二日、皇后陛下行啓在らせられ、生徒の授業製作品を親しく御覽の榮を賜りしを以て、同日を同校の紀念日と定め、本年も去る十二日、現在生徒三百七十餘名、職員附添、小石川植物園に於て園遊會を催したり。

●日本赤十字社總會　同社は來る二十一日を以て、第五回の總會を上野公園元水產舘に開く由、當日は皇后陛下にも臨御遊ばさるゝ由。

●看守人は女子　此度上野公園地舊博覽會場内に開設したる内國商品陳列舘の看守人は總べて女子のみにして、更に男子を用ひずと云ふ。

●高等女學校教員撿定方　は本年九月施行に付、撿定を受けんとするものは、六月三十日までに右願書を地方廳に差出し、地方廳にては七月三十一日までに文部省に差出すべしと、文部省より告示ありたり。

●京都に於ける產婆志願者　京都府下にて產婆試驗を出願するものは、每に市中のものゝみにて、郡村より出願したるものは是れまで絕て之れなかりし處、今回丹波船井郡園部より六名の產婆志願者ありたり。

●町立彦根女學校　江州彦根なる私立淡海女學校は、這回都合によりて彦根町へ引受くることなりたり、淡海女學校の稱を改めて單に彦根女學校となし、又彦根町及北靑柳村組合第一學區高等科彦根小學校の女子部を合併し、校長事務は石井彦根小學校長へ委囑し、舊淡海女學校長大谷直郞氏は新に同校訓導に委囑されたるよし。

●神戶英和女學校教師ソール孃　は渡來せられしより以來七年間、熱心に同校教師に從事せられしが、腦病の爲めに此度歸國せられんとす。

●婦人傳道學校　神戶なる婦人傳道學校は、三月廿八日卒業式を行へり、本年の卒業生は六名あり、一昨廿二年春の卒業生の發起にて、レブタ會てふもの起り、每月二錢を一株として、同校生徒及び其他の婦人の基督信者中に會員を募り、株金を以て、傳道に志ある婦人にして資金乏しく、力無き者を助くる規則なるが、塵積りて山となり、本年二月迄の集金百五圓餘にして、二人の姉妹を助け居らる。

●新潟女學校　に於ては、去る四日第一回の卒業式を擧行したり、北海地方私立女學校の卒業は、之を以て嚆矢とす。

●故米國公使の夫人　同夫人にはスフヰフト氏逝去以來氣分勝れず鬱ぎ居られしが愈歸國の念を起し、近々の内歸國せらるゝならんと云ふ、想ふべし夫人の心事。

●英客の結婚　横濱駐在英國領事館判事ハンチン氏は、其の息女を今回來遊せし其の甥イシー、ハンチン氏に婚せしめ、盛に儀式を擧げたり。

●鴉片禁賣の決議　倫敦四月十二日發　英國衆議院ハ百三十の多數を以てスア、ジヨセフ、ダヴツユ、ピーズ氏(バーナード、カツスル選出議員)の發議に依り印度に於て罌粟生產及び鴉片販賣に係る特許を停止するの一動議を採用したり

●旅行券を附與せし婦女　去三月中神奈川縣廳にて海外旅券を附與したる婦女は、布哇行二百八十二人、米國行廿三人、英領香港行一人、英國行一人、英領加奈陀行廿二人、淸國行一人、英領新嘉坡行一人、即ち總計三百三十一人なりといふ。

●歸朝の婦女　去三月中歸朝の屆出をなしたる婦女は、布哇より三十一人、英領香港より二人、米國より一人、即ち總計三十四人にして、外に米國に航行せんとして見合せたるもの一人なりといへり。

●世界最大の婦人　米國ミゾリー州のスコツトランド郡より、ニユーヨークに來りたるイライユインといへる婦人は、大婦人中の最も大なるものなり、同人は中々の美人にして、今年十八歲、身長八尺二寸にして、体量は僅かに二百六十封度(二十六貫五百二十目)なり、兩手を延ばし胸より量るに十尺の先きに指を遂するを得べし、足趾は一尺八寸、手掌は一尺三寸、胸は六尺を度り得べしと云ふ、而して同人は近頃小學校を卒へたる迄にして、如何なる理由にて斯の如く生長せしやは未だ解し難し、同人の衣服を製するには三十二ヤードを要すと云ふ。

●ブレーア夫人　米國の元老ブレーア氏の夫人は、時にビウリタン、エリサベスと稱ふる一書を著はさんとす。

●コツホ夫人　彼名高きコツホ氏の夫人は、氏に代りて万國との通信を勤む、氏の完全なる祕書官なり。

●新ナイテンゲール　廣き米國に、多くの看病婦あり、唯一人の完全なる新ナイテンゲール孃と云ふべきは、ルイサ、パアソン孃(MirsLouisaParson)なりとぞ。孃はナイテンゲールが、倫敦セント、トーマス、病院にて、ナイテンゲールに教育せられ、サルスレーが埃及遠征の時に隨行し、歸りて女王陛下の手づから赤十字の標章は胸間に飾られ、其后米國に歸つて、ウロンス、ホプキンス病院に務め、今や、バルチモーアにあるメレーランド、大學病院附屬、看病婦養成所の監督となりぬ。

●メレー、ピーン女史　著者の女教育家、メレー、ピーン孃は、七十九歲にて、過る日、ニウ、ヨークの都にて永逝す。

●大統領の令孃　大統領ハリソン氏の令孃たる、マツキー夫人は、米國の万國貿易と云へる、驚ろくべき有益なる論文を朗讀したり。

週報

●官令　六日勅令を以て陸軍衛生部現役士官補充條例中改正の件を裁可公布せらる●九日勅令を以て內閣附屬職員官制中改正の件を裁可公布せらる●十一日北海道廳所轄札幌農學校敎官俸給の件を裁可公布せらる。

●政治　五日日本人解停八日又停止せらる●自由黨の黨務章程定まる●十三日實圖文事件に付て鄕永寧鄕永慶鄕永邦外一名及び沼田正宣氏の妻妹日本新聞編輯人松野新太郞氏等豫審廷に召喚され取調を受く。

●敎育　七日同志社ハリス理化學校開校式。

品名	四月十六日
白米(一円ニ付)	
一等米	一斗〇升〇合
二等米	一〇三
三等米	一〇七
四等米	一一一
五等米	一一四
正米(一円ニ付)	
越中米	一斗四升六合
美濃米	一四四
尾張米	一四五
肥後米	一三九
越後米	一四一
雜穀(一円ニ付)	
本貫大麥	二斗五升〇合
上州小麥	一六〇
竹林麥	一四五
梅澤大豆	二〇五
青柳大豆	一九五
吟小豆	一五〇
白胡麻	一二〇
黒胡麻	一四三
鹽(一円ニ付)	
赤穂	二俵九分〇厘
大撫	二九五
本齋	四四〇
新齋	四九〇
醤油(一円ニ付)	
最上	八分〇厘
極上	八八
上物	一三〇
中物	一八〇
並物	二二〇
味噌(一円ニ付)	
地製上白	六貫六〇〇
同上赤	六、六〇〇
同紅赤	四、六〇〇

品名	四月十六日
呉服(一反ニ付)	
御召縮緬	八円、五〇
糸織	七、〇〇
一樂織	八、八〇
結城紬	五、五〇
節糸織	五、〇〇
本八丈	六、八〇
琉球紬	五、五〇
銘仙	三、五〇
奉書紬	四、〇〇
七々子	六、三〇
夏物(一反ニ付)	
都華織	七円、五〇
壁上存	六、〇〇
明石縮	七、〇〇
加茂川縮緬	六、〇〇
平上布數奇屋	六、〇〇
濱縮緬夏友仙	四、五〇
絽	五、〇〇
夏御召織	九、〇〇
裏地絹(一疋ニ付)	
花色糸吉絹	七円、二〇
同秩父絹	四、五〇
本紅絹	六、三〇
紅秩父	三、二〇
繰綿(一円ニ付)	
新坂上銘大入	七八〇目
新京丹大入	八〇〇
新坂丹大入	八一〇
新三上銘大入	八二〇
同尾上銘大入	八二五
同打綿文庫入	八七〇
眞綿(一貫ニ付)	
上入金	一三一円、〇〇
並入金	一二六、〇〇
並無銘	一二〇、〇〇

品名	四月十六日
乾海苔(百枚ニ付)	
洲崎上々	一円、〇〇
大森同	一、〇〇
深川砂村同	一、〇〇
大師潮田上	八〇
上總上々	七〇
製茶(一貫目ニ付)	
山城江州稀頭	三円、三五
同大頭	一、八五
同小頭	一、五五
同中茶	一、〇〇
狭山稀頭	一、七〇
同大頭	一、三五
同中頭	一、二五
同中茶	九〇
鰹節(十貫目ニ付)	
薩摩大	一七円〇〇
伊豆上	一九、〇〇
城の腰同	一八、五〇
遠州同	一八、〇〇
房總同	一五、〇〇
銚子節同	一四、〇〇
水戸磐城上	一四、〇〇
土佐大	一一、〇〇
水油(一樽ニ付)	
地水	七円、五〇
胡麻油	九、七〇
荏油	一一、八〇
桐油	六、九〇
綿油	六、五〇
坂水	八、四五
石油(一箱ニ付)	
チヤスター	一円、六五
デボース	一、六五
ホーキ	一、六七
ロシヤ	一、五八

○色を白くするさぼんの元祖たる三能さぼんは

藥劑士大鐘立岱氏と製造人西條重兵衞氏と多年の實驗により主として男女全體の色を白くしにきびそばかす皮膚病及び諸傳染病の消毒に大効ある藥劑を配伍し調製したる物なり昨明治二十三年十月を以て弊店の發賣する所となり爾來日尚淺きも其効能の著しき事實に三能の名に背かざると愛顧諸彥の高庇により世に高評を蒙り弊店の幸福之れに過ぎず然るに三能さぼんの日に月に益々盛大なるを羨ひ數多の破廉耻商等種々まぎらはしき色を白くする○○さぼん或は何さぼん又は何と一雨笹に現出し何れも外見よく何分かの香氣を含み一寸素人好きのするさぼんなり然るに實際功顯わる三能さぼんは返て容形おしく御使用中何となくざらつく氣みあれども是れ即ち藥力の致す處にして功能を主としたる證據なり三能さぼんは決して香氣や形容を主としたる○○さぼんの類にあらず又尋常化粧石鹸と異なるものなり今回從前の商標即ち茲に掲げたる洋裝婦人の圖を以て公然商標とし農商務省登錄御許可相成候に付御愛顧の諸君篤と右商標御覽の上他の形容さぼんに惑はされず愈御愛顧あらん事を江湖諸君に希ふ◎定價一個十錢郵稅二錢郵劵代用不苦候但二錢切手に限る右品各府縣下賣藥店又は和洋小間物店に取次販賣所御座候間御最寄にて御講求奉希候也

銀座一丁目

發賣本舖 つやぶきん本店 **佐々木玄兵衞**

☞ ○衞生化粧用 芳香入艶出 **花王しやほん**

内務省免許藥劑師瀨戶末吉先生發明
農商務省前分析課長工學士高峯讓吉先生試驗
東京愛生病院副院長中村重治先生實驗

登錄商標

東京府衞生課免許

本品はいかに粗皮の御肌と雖も第十 **色を白くし美艶肌**となり

にきび●そばかす●はたけ●あせぼ
わきが●たむし●ひゞ●しもやけ●
できもの總て皮膚一切に奇効あり
●品質及効能は前記の先生實驗の上**證明**せられたる物なり總て説明は本能書にくわしくあり
本品は大に貴孃紳士の好評を蒙りたる物なれば世上有觸れの云々石鹸と同視する勿れ(定價一個十二錢桐箱三入三十五錢)各地和洋小間物店及賣藥店に販賣仕候最寄りで御求を乞

製造發賣本舖 東京市馬喰町一丁目洋物處 **長瀨富郎**

右定價御送附次第實地廣告の爲當分郵稅弊店持にて郵送仕候

師範科生新募集

部長 吉田仲子

私立 **明治女學校**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日曜叢誌　第拾七號（四月一日發行）目次

◉社説　日本聖公會第三總會に就て（承前）○聊公會日報記者に答ふ

◉聖、祝日教訓　基督復活論　聖マコ祝日……水野功

◉説教　人生の行路……山縣與根二

◉寄書　ヘンリー、バーレー、リッドン……懸琴子

諸君の敬愛すべき良友を推薦す……法外堂主人

クリスト復活の詩……エチ、シェフェリス

◉信仰の糧　聖なる生活（和英對譯）

◉歴史門　教會畧史（教會史中より抄譯）……シー、ケー

◉譚叢　埃及の旅人（承前）

◉小兒の爲　問答教件

◉教報及び廣告

◉本誌は毎月一日發行○定價一冊金五錢○一ヶ年分十二冊前金五十五錢○府外は一冊に付郵税五厘を要す○廣告料は一行廿三字詰一回金四錢三回以上一割六回以上二割引とす

發行所　東京市麻布區飯倉片町廿八番地　日曜叢誌社

農學士寺尾熊三君著

植物學

一冊五十頁　定價十二錢

○文部大臣子爵榎本武揚公題字
○大學院醫學士三島通良先生編述

皇后宮御覧　はゝのつとめ

増補訂正第二版

親の巻　妊婦産婦の心得　定價金三十錢（郵税金二錢）

子の巻　日本育兒法大全　定價金四十五錢（郵税金四錢）

右は我國無双との好評を博したる母子衛生書なり。醫科大學産科婦人科小兒科病室を始として群馬縣高等小學其他の女學校に於て參考書等に用ゐらる。文章は談話躰平假名付にして極めて理解し易し。衛生の本源たる母子衛生法を識らんと欲する人は必ず一讀せらる可き良書なり。

書肆　通三丁目丸善。表神保町中西屋。馬喰町島利。春木町島利支店。通旅籠町中央堂。

下六番町　女學雜誌社

日本橋區新左衛門町四番地　太田總吉事

改名　約翰太田孝吉

林學士星野愼之輔君著

植物 昆虫 金石

採集法

一冊八十八頁　定價十二錢

女學雜誌社出版書目

著者	書名	冊數	價
鈴木弘恭大人述	つれ〳〵草講義	一冊	價金十錢
鈴木弘恭大人述	文法口授	一冊	同十六錢
鈴木弘恭大人述	百人一首講義	一冊	同三十五錢
船越鼎太郎君著	産婦小兒攝生法	一冊	同十八錢
關輪正路君纂	ひめ鑑	一冊	同四十五錢
中島俊子著	善惡之岐	一冊	同卅五錢
横山雅男君著	婚姻論	一冊	同廿五錢
島田三郎、植木枝盛兩君演說	廢娼演說	一冊	同五錢
巖本善治述	妓樓全廢	一冊	同五錢
島田三郎、巖本善治同著	公娼可滅	一冊	同五錢
農學士寺尾熊三著	植物學	一冊	同五錢
林學生星野愼著	昆虫 植物 金石 採集法	一冊	同十五錢
明治女學校教師八木兼辰書	和書手本	四冊	同四十五錢
女學雜誌編輯社	演說著作材料	八冊	同八十錢

下六番町六番地 女學雜誌社

通信女學 第二期生 新募集廣告

學問隆盛の今日、女學の進歩一方ならず、凡そ年頃の娘君にして稍發學に就かぬは最と〳〵少なく、既に一家の妻となりし方にても晩學の勉強をさ〳〵年少の人に劣らぬも多し、概して何處の婦女子も皆な學問と云ふことに心掛け凡そ此心掛なきものは當今の女德に欠けしやう思ふに至りぬるとも明治の代の恩澤に有がたきことと云ふべし、因りて何處にも女學校の設けあり何處の娘君も茲に入學して日々の進歩目覺しきとなるが、既に妻となり母となりて一家子女の掛念ある方々は最早家を出て通學することも出來ず又家に敎師を引て敎を受るも甚だ手數なれば今日の時世に斯る、御婦人のみ此儘無學に終るべきかと心配する人も少なからず、此類の御婦人は何か家に在りて獨り稽古する工夫なきか又獨學に便利の書物はなきかと屢ば問合せあり、吾社之を以て遂に意を決し、昨年一月通信女學の仕組を新設し、毎月一冊の講義録を出版して、四方晩學の婦人居ながら普通の女學を獨り學びするの便に供へたるが、本年一月に至り、一ヶ年の課業を恙がなく卒へて、快ちよく全科を卒業したるもの七百餘名あり。然るに、去年一月申込の期に後れたる人々も少なからざるを以て、本年更に講義錄を再版し、改めて第二回の習讀者を募る。

敎授科目左の如し。

萬國史、日本歴史、算術、簿記、理化學、生理學、動植物學、作文法文例、料理、歌詠方、女禮、和文讀本、漢文讀本、家政學(衛生、育兒、看病を合す)裁縫、圖入地理、英學。

敎師は、醫學士三島通良、農學士寺尾熊三、磯貝由太郎、木村祐吉、其他重もに明治女學校の敎員諸君に委賴し、專ら親切鄭寧を主意とす。

代價一冊前金三十二錢(無郵税)、半年分前金一圓八十錢、一年分前金三圓五十錢、一切前金に非れば發送せず。

明治二十四年一月廿五日第一號を發兌し、以後毎月廿五日に出版して翌一ヶ月中の科目となし、其十二月に至りて全科卒業となす。

東京麹町區下六番町六番地 女學雜誌社

家庭 廉價 女學書類發行　女學雜誌社編輯

子供の談　紙數八十葉　郵税なし　定價十二錢

右は子供の爲になる好きお話にて、母親が言ひ聞かすに結構なる材料なり。第一、田舍音樂師。第二、董の君。第三、熊と旅人。第四、風と日の喧嘩。第五、ハイ〳〵とタドイマ。第六、カンとクッド。第七、王にも勝てる人々。第八、母の愛。第九、柔順なる娘。第十、英雄の所業。第十一、ましき兄妹。第十二、正直ある樵夫。第十三、慾婆。第十四、忠義の家來二人。第十五、不思議の新衣裳。第十六、小娘とガマ。第十七、尤も悪き所行。第十八、正直なる小娘。

西洋女禮　紙數六十七葉　郵税なし　定價十二錢

右は、婦人紹介の事。婦人書面紹介の事。婦人訪問名刺の事。婦人會話の事。婦人案内の事。散歩、かざり、宴會の事。食卓上の心得の事。婚姻の事。客を遇する事などに分ち、西洋貴婦人の心得を一と通り平易に解明したり。

女子生理　紙數百九十葉　郵税なし　定價廿五錢

右は、月經の事。懷姙の事。分娩の事。の三つに分ちて、くはしく女の生理の事を説き。且つ長谷川泰氏が婦人病の元因、村岡範爲馳氏が眼鏡の話と云へる二つの論を附錄としたるもの也。

和畫案内　紙數百廿葉　郵税なし　定價五錢

右は八木兼辰氏の講述にかゝるものなり

兒育て草　紙數百六十葉　郵税なし　定價二十錢

右は育兒の心得を問答躰にして、人の氣のつかぬ細かなる事迄て一々説明し、母として子を育つる總ての心得を悉とく講述したり。

邦文學　紙數百六十葉　郵税なし　定價二十錢

右は同志社教師松山高吉君が講述にして、和文躰の文法、語格を、極めて細密に説明したるもの也。

官許第五百五十九號
米國洗染會社傳習
一名洋服及毛織物輕便洗淨水

化學作用 **ドライグリーニング水**

取次所御望ノ方ハ御申越次第相當御相談スベシ

東京市小石川區柳町二十四番地

伊藤組洗染所 調製

鈴木弘恭述。

第三版

百人一首講義

陽春の讀書に宜し　歌留多遊びに宜し
遺物に宜し　詠歌に宜し

上製美本　五十錢　郵税六錢
並製淡裝　三十五錢　同　四錢

女學雜誌社

定價			
一冊。	六錢	郵税。五厘	(但府内無郵税)
十一冊。	五拾八錢	郵税。五厘	(同　前)
半年分	壹圓四拾六錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓八拾六錢	府外は	貳圓六拾錢

東京市麹町區下六番町六番地

發行所　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三